



今日のキーワード 『街角景気』は回復続くも、ペースは遅い

「景気ウォッチャー調査」、いわゆる『街角景気』とは、景気に敏感なタクシー運転手や小売店、メーカー、輸送業、広告代理店など、地域の景気の動きを敏感に観察できる立場にある約2,000人を対象とした調査です。12月の『街角景気』では、足元の景況感を示す現状判断指数（DI）は回復傾向が続きましたが、改善幅はわずかで増税前の水準に戻っていません。先行きについては、持ち直しへの期待がやや弱まりました。

ポイント1

現状判断DIは前月比+0.4ポイントの小幅上昇で39.8
先行き判断DIは▲0.3ポイントの45.4と、3カ月ぶりに低下

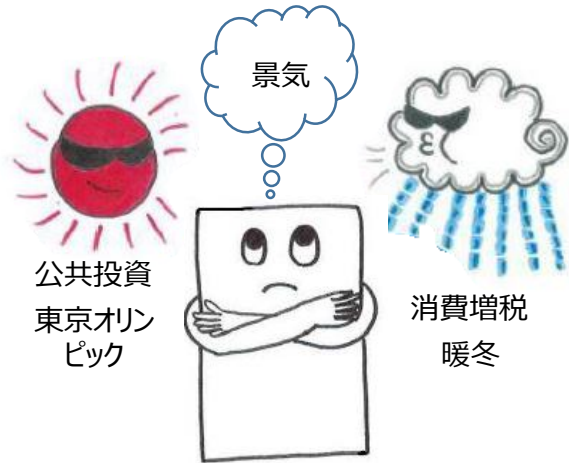
- 2019年12月の『街角景気』によると、現状判断DI（季節調整値）は前月比+0.4ポイントの39.8となりました。2カ月連続の上昇でしたが小幅な上昇に留まり、増税前の40台には戻っていません。項目別では家計動向関連や雇用関連がわずかに低下した一方で、企業動向関連が改善しました。非製造業は前月から横ばいでしたが、悪化が著しかった製造業が+3.9ポイント改善しました。半導体関連設備の回復が背景とみられます。
- 先行き判断DIは前月比▲0.3ポイントの45.4と、3カ月ぶりに低下しました。項目別では企業動向関連、雇用関連がやや上昇しましたが、家計動向関連が同▲1.0ポイントと全体の足を引っ張りました。消費増税や暖冬の影響とみられます。

ポイント2

現状コメントは「消費税」が高水準
通商問題に高い関心

- 街角の声をより客観的に分析する、当社独自のテキストマイニングによる分析手法（*）によると、ウォッチャーの現状判断に関するコメントにおける単語の使用数は、ネガティブな単語がポジティブな単語を3カ月連続で上回りましたが、両者の差は縮小しました。「消費税」は減少傾向も依然高水準です。
- 先行き判断については、ポジティブな単語がネガティブな単語を2カ月連続で上回った一方で、その差は縮小しました。こちらも「消費税」は減少傾向ながら依然高水準です。通商問題にかかわる用語も引き続き高い関心を集めています。

（*）テキスト（文書）をコンピュータで探索する技術の総称。典型的な例として、テキストにおける単語の使用頻度を測定し、テキストの特徴を統計的に分析・可視化することで、背後にある有益な情報を探ることができます。



今後の展開

景況感は持ち直しもペースは遅く、回復への期待やや弱まる

- 内閣府は『街角景気』について、「このところ回復に弱い動きがみられる」との表現を据え置きました。先行きについても「海外情勢等に対する懸念もある一方、持ち直しへの期待がみられる」との見方を維持しました。12月の『街角景気』は、足元の景況感は持ち直したものの、そのペースは遅く、先行きについては回復への期待がやや弱まりました。公共投資や東京オリンピックなどへの期待がみられる一方、消費増税や暖冬への懸念が強く、当面は強弱感が拮抗する状況が続くとみられます。

ここも
チェック!

2020年 1月 6日 宅森昭吉のエコミックレポート
2019年12月10日 『街角景気』は回復へ、消費増税の影響薄らぐ

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。